

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名 小布施町

1	タイトル	介護給付適正化の推進
2	現状と課題	
(1)	ケアプラン点検の実施	
令和3年度までは県から派遣される県介護支援専門員協会の協力のもと事業所に対して点検を行ってきた。4年度以降は、町地域包括支援センターの主任介護支援専門員が計画に沿って点検を実施している。その他、住宅改修の点検は従前から行っているほか、福祉用具の購入と貸与については、第9期から点検を行うこととした。		
(2)	要介護認定の適正化	
他の保険者の要介護認定状況に比べて、当町では要介護4となる者の割合が高い時期があった。認定調査票の記載内容に偏りが生じている可能性もあったため、認定調査票の全件点検と調査員間での共有により、公平な認定となるよう努めている。		
(3)	医療情報との突合及び縦覧点検	
適正化事業に掲げられているものではあるが、介護保険者単独での実施は困難なため、長野県国民健康保険団体連合会に委託して実施している。		
3	第9期における具体的な取組	
(1)	ケアプラン点検の実施	
年に1事業所の点検を行う。住宅改修に関する調査、福祉用具購入に関する調査を各年1件以上実施する。福祉用具貸与に関する調査を年10件以上実施する。効果的な点検を実施するため、長野県国民健康保険団体連合会が提供する給付実績台帳を活用する。		
(2)	要介護認定の適正化	
すべての認定調査票（年約500件）について記載内容を点検する。調査員研修の受講、要介護認定適正化事業業務分析データを参考に標準化に努める。		
(3)	医療情報との突合及び縦覧点検	
医療保険情報の突合点検・介護報酬支払情報の縦覧点検の実施を通じて、誤請求・重複請求等を排除し給付の適正化を図る。		
4	目標（事業内容、指標等）	
(1)	ケアプラン点検の実施	
年に1事業所の点検を行う。住宅改修に関する調査、福祉用具購入に関する調査を各年1件以上実施する。福祉用具貸与に関する調査を年10件以上実施する。		
(2)	要介護認定の適正化	
認定調査票の全件点検、調査員研修の受講		
(3)	医療情報との突合及び縦覧点検	
長野県国民健康保険団体連合会に委託し、全件点検実施		
5	目標の評価方法	
(1)	ケアプラン点検の実施	
● 評価の方法 目標件数の点検の有無		
(2)	要介護認定の適正化	
● 評価の方法 目標件数の点検の有無		
(3)	医療情報との突合及び縦覧点検	
● 評価の方法 全件点検実施の有無		

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名

小布施町

1 年度	令和6年度
------	-------

(実績評価)

2 実施内容	
(1) ケアプラン点検の実施	居宅介護支援事業所を対象に介護支援専門員ごとに1名の利用者を選出、事前に資料を提出してもらった上で、事業所を訪問。町の主任介護支援専門員が点検を行った。
(2) 要介護認定の適正化	すべての認定調査票について記載内容の点検を実施し、疑義の内容などを全調査員で共有した。認定調査員がeラーニングによる研修を受講した。
(3) 医療情報との突合及び縦覧点検	長野県国民健康保険団体連合会に委託し、全件の点検を実施した。
3 自己評価結果	
(1) ケアプラン点検の実施	○評価 【 A 】 ○理由(根拠となる指標、アンケート結果等) 計画通りに点検を実施した。点検を受けたことで、プランに関する方向性や予後予測を事業所内で相談・共有していきたいという変化があったという報告があった。
(2) 要介護認定の適正化	○評価 【 B 】 ○理由(根拠となる指標、アンケート結果等) 要介護度別では若干の偏りが見られたが、軽度・中重度の区分では偏りは見られず、概ね適正な要介護認定に繋がっている。
(3) 医療情報との突合及び縦覧点検	○評価 【 A 】 ○理由(根拠となる指標、アンケート結果等) 全件実施し、月に数件の取り下げにつながっている。
4 県の支援に対する評価、求める支援	
(1) ケアプラン点検の実施(ケアプラン点検推進業務(委託事業)等)	○評価 【 A 】 ○理由・求める支援等 引き続き有意義な研修や情報提供をお願いします。
(2) 要介護認定の適正化	○評価 【 A 】 ○理由・求める支援等 引き続き有意義な研修や情報提供をお願いします。
(3) 医療情報との突合及び縦覧点検	○評価 【 】 ○理由・求める支援等 特になし
5 課題と対応策	
(1) ケアプラン点検の実施	研修や他自治体の実施例を参考に、より適切な支援に繋がるように努めていく。
(2) 要介護認定の適正化	現在の認定調査票の点検等を継続して実施する。
(3) 医療情報との突合及び縦覧点検	事業所の分析ができると望ましい。